

**[AW-1] 授賞式**

司会：森 正樹（大阪大学大学院 消化器外科学Ⅰ） 山本 雅一（東京女子医科大学病院 消化器外科）

日時：2015年7月16日（木） 11:00～11:45 会場：第1会場(アクロシティ浜松 1階 大ホール)

**AW-1-2 JSGS Art of the Year 2015（手術部門）：肝胆膵ガンに対する血管合併切除を用いた積極的外科切除**

宮崎 勝:1

1:千葉大学大学院 臓器制御外科学

肝胆膵ガンの多くは進行したステージにて診断される。また肝胆膵ガンの最も有効な根治療法が外科切除である現在、根治的外科切除を安全、確実に施行することが肝胆膵ガンを持つ患者さんの予後を向上するうえで最も重要なことになる。肝胆膵ガンの多くはその解剖学的特性から門脈、下大静脈、肝静脈および肝動脈といった様々な血管に近接して発生し、しばしばそれら血管へのがん浸潤が外科切除を困難にすることが多い。これまでこのような多くの進行した肝胆膵ガンに対して我々は血管合併切除を伴った積極的外科切除術を数多くの症例に対して施行してきたが特にその血管合併切除における我々の手技上の工夫を中心に述べてみたい。また血管合併切除を伴った積極的な外科切除においては手術侵襲もしばしば大きいことより術後合併症の発症が懸念される。したがってその合併症対策もこれら積極的外科切除を安全に行うためには重要な要素でありその周術期対策についても述べたい。更に肝胆膵外科領域における血管合併切除を伴う外科切除のこれまでの治療戦略の変遷および成績について述べるとともに、肝胆膵外科領域における血管合併切除の意義および今後の展望についても考察したい。